

欧州洋上風力発電の

先進地視察の概要をお知らせします

商工港湾課産業政策室 室長 浜野 隆司

昨年3月に県北地域一体の活性化を目指した「能代港ビジョン」がとりまとめられました。この中で、国内の洋上風力発電事業を先導する複数の計画が周辺にあり、また、今後建設が見込まれる北陸から北海道にわたる海域の中心に能代港が位置する優位性を生かし、洋上風力発電の拠点港を目指すこととしています。



移動途中の風景

視察訪問地



同年8月には「能代港洋上風力発電拠点化期成同盟会」を立ち上げ、能代港整備に向けて取り組んでいます。

7月1日〜5日には、齊藤市長、市職員、能代商工会議所、広幡会頭のほか、市内の関連事業所の計6人が、洋上風力発電の先進地であるドイツとデンマークを視察してきましたので、その概要をお知らせします。

デンマークのエスビアウ港やドイツのブレーマーハーフェン港では、洋上風力発電設備のふ頭での事前組立の状況視察や港湾関係者との意見交換、洋上風力発電の据付工事で使用される作業台船への乗船体験をしました。

また、風力発電機メーカーの工場の視察や洋上風力発電所の見学も行ってきました。今回の視察で得た知見を生かしながら、引き続き、能代港の洋上風力発電の拠点化に向けて、港湾整備や地元企業の関連分野への参入、関連産業の集積などに取り組んでいきたいと考えています。

問合せ 産業政策室

☎ 89・2187

ブレーマーハーフェン港（ドイツ）

ドイツ北部のブレーメン市からヴェーザー川に沿って北に約50キロの北海への河口部に位置しています。

延長5キロにおよぶ岸壁にコンテナを取り扱う50基を超えるガントリークレーンが設置され、輸出を待つ無数のコンテナと自動車が並んでいます。



ブレーマーハーフェン港の様子



風力発電機の風車部品（ナセル）の組立工場を視察

ふ頭では、風車ブレードが保管され、港湾区域には、風車製造工場が立地していました。

風車製造工場には、ドイツやポルトガルで製造された風車部品が集められ、組立作業が行われており、その部品点数は、1万7000点に及ぶとの説明がありました。

コペンハーゲン（デンマーク）

デンマークの首都コペンハーゲン沖約3キロのエーレスンド海峡にある、ミドルグルンデン風力発電所を見学しました。デンマークの大手発電事業者のドン・エナジー社と、市民との50対50の出資による協同組合形式による運営が行われています。



離岸距離約3キロ。2MW×20基のミドルグルンデン洋上風力発電所



エスピアウ港での作業風景
(MH I ヴェスタス社提供)

北海をのぞむ、デンマークのエスピアウ港では、世界シェア1位と2位の洋上風車メーカーである、シーメンス社とMH I ヴェスタス社が洋上風力発電設備の事前組立と積出港として利用しています。エスピアウ港港湾エリアは面積450万㎡であり、そのうち約100万㎡が風車メーカー用地として利用されています。

洋上における建設期間を短縮し、コストとリスクの低減を図るために、ドイツやイギリス、デンマーク国内から輸送された大型・重量物などの構造部品を港に仮置きし、積み込み前に風車の仮組立、タワーの組立、ナセルの試運転を行っていただきます。風車タワーの高さは80mほどと説明があり、高さ100mを超えるクレーンを使用して、洋上で設置作業を行う大型作業台船への積込の準備が進んでいました。



←作業台船「シラー」
丸紅株式会社ホームページより
・2015年竣工
・全長139m×全幅50m×深さ11m

- ・クレーン容量 1,500 t
- ・最大作業深度 65m
- ・最大積載重量 8,000 t



作業台船に乗船
エスピアウ港には、複数の作業台船が停泊していました。その一つのシージャック社所有の「シラー」へ乗船し、説明を受けました。作業台船は、海上で船体をジャッキアップすることが可能で、波の影響を受けずに設置作業が可能とのことでした。

再エネ海域利用法における 今後の促進地域の指定に向けて 協議会の組織などの準備を直ちに開始する 有望な区域に選定されました

7月30日、再エネ海域利用法における今後の促進地域の指定に向けて、協議会の組織などの準備を直ちに開始する有望な区域のひとつに、「秋田県能代市、三種町および男鹿市沖」が選定されました。

今後、関係行政機関や漁業団体などの利害関係者などから構成される協議会が設置され、協議が行われるとともに、国による詳細な調査が進められ、第三者委員会での審議、関係省庁との協議などを経て、同法に基づく促進区域が指定されることになります。

市としては、引き続き、促進区域の指定に向け、能代港洋上風力発電拠点化期成同盟会を中心に取り組みを進めていきます。



エスピアウ港事務所との
情報交換

漁港として開かれたエスピアウ港は、1970年代から北海での石油や天然ガスの開発基地として、2000年ごろからは、北海での洋上風力発電施設の基地港湾として、重要な役割を担っています。今後もヨーロッパでは洋上風力発電の導入拡大が見込まれ、メンテナンスの需要も高まることから、さらなる港湾の機能強化が必要であるとの説明を受けました。